

あ、おいしい。

緊急生産調整推進対策の計画的な推進を図ろう。
直播栽培等新技術の導入と地域性を活かした米づくりを進めよう！

平成11年度

稲作情報

会津版
第3号

平成11年 6月23日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島県の米稲作情報編集会議
編集：福島県農業試験場会津支場

基本技術を励行し、安定多収、良質良食味の会津産米の更なる向上を図ろう

1 カ月予報（6月18日仙台管区気象台発表）

この期間は、梅雨前線や低気圧の影響で平年同様曇りや雨の日が多い。平均気温は「高い」見込み。

6月26日～7月2日：低気圧や高気圧が交互に通る、天気は周期的に変わる。平均気温は「高い」見込み。

7月3日～7月16日：梅雨前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多い。平均気温は「高い」見込み。

移植栽培の当面する技術対策のポイント

葉いもちの早期発見、早期防除と中干しの徹底を！！

1 生育状況

(1)作況試験の草丈は平坦部、高冷地とも並～やや長い。茎数は各品種とも必要茎数は確保された。高冷地は平年よりかなり多い。主稈出葉からみた生育は平坦部、高冷地とも平年並（表1）。

(2)現地の生育は、草丈は並～やや長め。茎数はバラツキが大きい、概ね平年並まで回復。

2 当面の技術対策

(1)葉いもち 置き苗でのいもち病が平年より7日早い6月7日に確認されている。感染に好適な気象も6月4半旬以降増加している（表5）。移植株での発生に警戒を。

置き苗が残っている圃場は直ちに除去する（本年は置き苗放置は場が特に多い）。

葉いもちの発生が確認された水田では、直ちに散布剤で防除を行う。早期発見が重要。

(2)中干し 目標茎数確保後は、根の健全化と過剰生育防止のため早急に中干しを行う。中干しの効果は、生わら施用田等では特に大きい。中干しの程度は砂質土壌では弱め、肥沃な水田は田面に亀裂が生じる程度まで行う。

作溝は、降雨時の排水を助けるため、中干し時期に長雨が続く年には特に有効である。

中干し終了の時期は7月上旬とし、中干し終了後は間断灌漑とする。

(3)施肥管理 カリの追肥（10a当たり成分4kg）は稈質、登熟向上に有効である。出穂前35～40日前を目安に施用する。特に、砂質老朽化水田、排水不良田等で効果が高い。

つなぎ肥は、土壌窒素が残存しているので（表2）、側条施肥等で葉色の低下が著しい場合を除き行わない。

具体的なデータ

表1 作況試験の生育状況（中苗・5月20日植）

品 種	年次	会津支場（平坦部）				品 種	年次	冷 試（高冷地）			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
ひとめぼれ	本年	33.4	684	8.7	44.0	まい	本年	34.0	515	7.0	37.8
	前年	28.4	546	8.1	45.9		前年	29.4	384	6.9	38.0
	平年	32.6	596	8.3	45.8		平年	32.9	391	7.0	38.4
	平年比・差	102	115	0.4	-1.8		平年比・差	103	132	0.0	-0.6
コシヒカリ	本年	36.3	475	8.1	42.1	初 星	本年	30.2	543	7.7	40.1
	前年	31.2	421	8.1	42.4		前年	29.4	597	7.3	42.2
	平年	34.9	567	8.2	43.3		平年	30.1	461	7.2	40.7
	平年比・差	104	84	-0.1	-1.2		平年比・差	100	118	0.5	-0.6

（会津支場：6月21日調査 冷試：6月19日調査）

表2 土壌中のNH₄-N

場 所	年次	NH ₄ -N(mg/乾土100g)	
		6月上旬	6月中旬
会津支場	本年	5.01	4.75
	前年	4.16	4.74
	平年	4.75	4.38
冷試	本年	5.40	5.17
	前年	7.98	6.35
	平年	6.76	5.99

注：地力試験三要素区

直播栽培の当面する技術対策のポイント

生育に応じた水管理の徹底を！！

1 生育状況

- (1) 会津支場内 5 月10日播、条播は草丈が平年より長く、茎数は平年比67%と少ない。葉数は前4ヶ年平均より進んでいる。冷害試験地の 5 月11日播、散播の茎数は前2ヶ年よりも多い(表3)。
- (2) 現地では、ほ場や地域間のバラツキが大きい。概ね条播は茎数が少なく、散播は並～多い傾向である。

2 当面の技術対策

- (1)水管理 目標茎数を確保したほ場では作溝を行い、田面に十分に亀裂が入るまで中干しを実施する。特に、生育過剰なほ場や還元程度が大きい水田では、土壌の固化と無効分げつを抑制し、根の張りを良くするため期間を延ばし、強めに行う(表4)。
まだ目標生育量が確保されていない圃場では浅水管理を継続し、生育の促進に努める。
- (2)肥培管理 基肥窒素を施用した水田では、穂肥の時期まで追肥をしない。
基盤整備直後のため、無窒素でスタートし葉色低下が見られる水田では窒素成分で10a当たり2kg程度施用する。
カリの追肥は移植栽培に準じて実施する。
- (3)葉いもち 直播稲は移植稲より生育ステージが若いいため、葉いもちに対する抵抗力が移植稲より弱い。
防除 葉いもちの早期発見、早期防除に努める。
- (4)雑草防除 広葉雑草が残草した場合には、ペンタゾン剤で防除する。

具体的なデータ

表3 湛水直播生育状況

試験場所	年次	播種日 (月・日)	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)
会津支場	平11	5.10	62	23.9	250	6.5
	平10	5.8	127	23.3	579	6.6
	平9	5.9	135	20.2	368	6.0
	平年	5.9	128	21.3	373	-
	平年比	1	48	112	67	-
冷害試験地	平11	5.11	162	30.0	772	-
	平10	5.9	163	28.8	579	-
	平9	5.12	163	25.4	549	-

会津支場の平年値は平成6年～10年の平均値

品 種：会津支場 ひとめぼれ 冷害試験地 まいひめ

播種法：会津支場 条播 冷害試験地 散播

調査日：会津支場 播種後40日目(本年は6月18日)

冷害試験地 播種後45日目(本年は6月24日)

表4 直播イネの中干しの程度と生育収量

収量構成 要素等	中干しの落水期間	
	7月1日～10日	7月1日～30日
稈長 (cm)	94.6	90.2
穂数 (本/㎡)	654	623
籾数(×100)	444	390
登熟歩合(%)	57.7	72.3
玄米千粒重(g)	20.7	20.5
精玄米重(kg/a)	51.0	56.7

(1987年 会津支場 ササニシキ)

表5 BLASTAMによるいもち感染好適日

月・日	6.07	6.17	6.18	6.19	6.20
喜多方	-	-	4	3	4
西会津	-	-	4	3	4
猪苗代	1	-	3	3	-
金山	-	-	3	3	3
若松	-	-	3	3	3
只見	1	4	3	3	-
南郷	1	4	3	3	-
田島	1	-	3	3	3

は好適感染日、数字は準好適感染日

麦・大豆栽培の技術対策のポイント

(1)大豆

会津支場 6 月3日播きの作況試験大豆(スズユタカ)は、出芽日数が7日で平年より2日短縮した。
6 月上、中旬の現地一般ほ場の播種作業、出芽は順調であった。

排水対策 大豆は生育初～中期の湿害により大きく減収する。特に、転換畑で培土していないほ場では明渠を補修し、排水対策を万全に行う。

中耕培土 1 回目は播種後20日頃(3葉期)を目安に、子葉～初生葉が隠れる程度に行う。2 回目は5～6葉期に第1本葉の節が隠れる程度に行う。

追肥 コーティング尿素を用いた追肥は、最終培土時(6月上旬播で7月上～中旬)に行う。ほ場全面に散布後、培土し土を株元に寄せる。施用量は10a当たり窒素成分量で6kgとする。